

## 【解説】沖縄在来豚 アグーとアヨー

### 島豚 アグー



元中二年頃（1385）中国から導入されたと言われ、特別な改良をされことなく現存してきた。戦後パークシャー種種の導入で雑種化したことと、実用的な西洋種の導入

と共に社会情勢がラードを必要としなくなってきたこと、小型で産仔数が少ないことなどが原因で激減した。

絶滅したと考えられていた島豚（アグー）は趣味的に飼育していた人たちにより維持された。名護博物館、北部農林高校により程度の良いアグーが収集され、戻し交配を重ね戦前に近い状態のアグーに復元されている。

交雑豚においてもアミノ酸成分の多いことコレステロール値が低いことなどから見直され活用が検討されている。

### 島豚 アヨー

唐豚は外国より140年前に渡来した白色豚の系統で島豚より凹背はひどくなく、性質温和で肥育性に富んでいる。主として泡盛のモロミ粕で飼われていた。大正末期から昭和初期にかけて首里の酒屋で飼育されていた豚は、大部分は、黒豚であったが、中には黒毛のところどころ白毛の混じった豚も見られ、この豚を「アヨー」と呼んでいた。

（鹿熊俊明 養豚経営技術講座 チクサン出版社 1984）

1843年に英国船が北谷間切沖で難破したしたことがあったが、その時、乗組員は琉球王府によって救助され援助を受けた。その謝礼として翌年の1844年に英国から牛、水牛、めん羊、とともに雌豚2頭、雄豚1頭の寄贈を受けた。この豚は首里赤田村と鳥堀村に委託飼育され、これが唐豚の元祖で黒白斑であると伝えられている。

（新里銀徳 沖縄大観 沖縄朝日新聞社 1953）

アヨーも絶滅したかに思われていたが、現在保護され数頭飼育されている。



# 生粹の島豚

養管理に耐え、その時代に必要とされたラードを主に供給してきた豚である。沖縄の豚は交易時代に中国から持ち込まれてきたと推察する学者が多いが、伊江島の具志原貝塚から（弥生後期に推定される層）豚の骨が検出されている。このことは、交易以前の時代に沖縄に豚が導入され、飼育していた事を裏付ける貴重な証拠となり沖縄で人と豚との関わりは2000年近いことになる。

島豚とは古くから沖縄の風土で飼育され沖縄に馴化した豚のことで、中国系統の豚である。島豚はおおむね黒毛の粗毛が密集し、顔は長く、耳はたれて顔を覆っている。凹背で腹は下に垂れ下がっている。体質強健で粗放的な飼

食の文化と遺伝子を次の世代に繋げよう

農業生産法人 有限会社今帰仁アグー 農場: 〒905-0403 沖縄県今帰仁村連天 927 Phone/ Fax: 098-056-3543

E-mail: agu@nakijin.com この情報は《なきじんドットコム》にて公開しています <http://www.nakijin.com/>

## 保存食品として

スーチカー（塩漬け）  
ウーアンダー（ラード）耳壺に入れて保存し、揚げ物、炒め物、みそ汁等に加えた。  
アングカシー（ラードをとった残り）

## ウーフールの認識と窒素循環

在来豚は、主に正月に利用するために各家に飼育されていた。繁殖用にもちいることはまれで子豚を購入し一カ年かけて肥育した。

島豚はウーフール（便所兼豚舎）で家庭からの残飯、くず野菜等で飼育されていた。

フールは風留と書かれ魔物（マジムン）病等をその場で留めるとされ神が宿ると信じられていた。

沖縄では、人の排泄物を豚に餌として与え、豚の排泄物を肥料として利用してきた。また現代では焼却されているだけの、野菜屑、生ゴミを再利用し飼料として使い、動物性蛋白の生産をおこなっていた。

当時の養豚は衛生的に問題があり、有鉤糸虫、豚のう虫等人畜共通の寄生虫があり、昭和初期に廃止された。

ソーキ、アシティピチ、ラフテー、中身、血液等、多くが食材に広く利用されている。在来豚は単に食材のみならず、琉球漆器、漁具の加工等にも使われていた。古代には装飾品、骨粉利用もされていたと考えられている。

# 歴史から見た沖縄での在来豚の利用

## 琉球漆器の豚血利用

明治以後、民間工房に移ってからは、安価の豚血下地が使用される。

琉球漆器の特徴である豚血下地は、素地に木目の荒いデ イゴ材を使用するようになり、大量の下地を必要とする、このため高価な漆が使用できなくなり、沖縄では日常食になっている豚の血が毎日安価で入手できたので、豚血下地が使用されるようになった。豚血下地は、クチャ（土）と豚血、桐油、そして乾燥剤として光明丹を一定の割合で混合して作る。増量剤としてニービ（砂岩）や細かい砂を混ぜたりして使用される。豚血は常に新鮮でないとな接着力を失う。

## 祈願

豚の頭骨は、ひろい地域で悪霊や疫病を払うと信じられており沖縄でも「シマクサラシ」「シマクサラサー」という行事が行われている。

## 遊具として

豚の膀胱はシーバイブッカーと呼び、子供達は膀胱に空気を入れ、風船、ボールとして使った。

## 漁具の加工

漁網、漁業用ロープを豚血で加工し腐食をふせいだ。サバニの塗料に豚血とサバ（鮫）の油脂を混合し塗布。

しかし、島豚は数も少なく、飼育が非常に困難です。私たちはこの島豚を幻とならぬよう、情熱と努力により食と文化の遺伝子として次の世代に繋げようと考えています。 医食同源の沖縄で育んだ「今帰仁アグー」です。ヤンバルの農村から長寿の源と貴重な風味をお楽しみください。 農業生産法人 今帰仁アグー



ゆつくりと時が流れる沖縄で、ゆつたりと育った生粋の島豚「今帰仁アグー」は、黒豚の源流と言われる島豚「アグー」と交易時代に持ち込まれた唐豚の子孫と考えられる島豚「アヨー」を交配し、丹精をを込めて育てあげた最高の逸品です。  
島豚は旨味が極めて強い事から注目されました。